HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第一部　通史.　第三編　北海道大学の再編（一九八九～二〇〇一年）
Citation	北大百二十五年史, 通説編, 171-172
Issue Date	2003-12-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/28155
Type	bulletin (article)
File Information	3_171.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第三編　北海道大学の再編（一九八九～二〇〇一年）

一九八七年に文部大臣の諮問機関として創設された大学審議会は、臨時教育審議会（一九八四年設置）の高等教育に関する議論を受け継ぎ、教育・研究における高度化・個性化・活性化について検討を進め、教育課程自由化、大学院拡充、大学の自己評価などに関わる答申を行った。これらは大学の社会的な位置づけを大きく変えていくことを意味した。さらに政府は九八年に公共性の高い事業の効率化の一環として、国立大学の独立行政法人化に向けて問題を検討していくことを表明した。

北海道大学では一九八九年に大学院整備構想検討委員会を設置して、大学院に重点を置いた大学再編を本格的に開始することになった。大学院重点化の実施は九三年から二〇〇〇年にかけて順次行われた。また、教養部に関してはこれまでの改革の検討・実施を受け継いで議論が続けられ、九五年の教養部の廃止と全学教育の実施へと繋がった。

教育・研究面では、国際交流事業がより活発に繰り広げられ、また八〇年代から本格化した情報ネットワークの整備が大きく進んで大学の活動に不可欠なものとなった。組織面では既存研究所・センター・施設の統合や改編が行われ、最新の学問動向に積極的に対応し得る体制が整えられた。

大学院重点化に続き、産学官協同や情報公開、法人化問題など大学をめぐる状況の急速な変化に対して、北海道大学は副学長設置や総長補佐体制整備を通じて総長を中心とする強力なリーダーシップを形成し、さまざまな課題に取り組むことになった。二一世紀の最初の年である二〇〇一年に創基一二五周年を迎え、ほかに例のない独自の歴史を再確認しつつ、地域に根ざしながら世界に向かって広く開かれた新たな大学像を構築するための模索が続けられている。

第三編では、北海道大学で大学院重点化についての議論が本格化した一九八九年以降、創基一二五周年を迎えた二〇〇一年までの大学再編期を内容とする。